

本校における道徳教育の実際

広島県立西城紫水高等学校

教諭 片山 壮希



1

本日の構成

- 1 本校の特徴
- 2 研究主題(道徳教育研究指定校)
- 3 平成28年度の取組
- 4 平成29年度の取組
- 5 今後の見通し

2

1 本校の特徴

「一人一人を大切にした指導」

※多様な学校行事

地域との交流行事

東日本大震災被災地への修学旅行

集団づくり

ボランティア活動

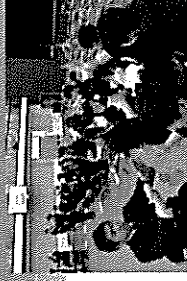


3

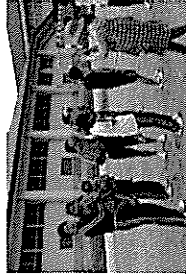
地域との交流活動



ボランティア清掃



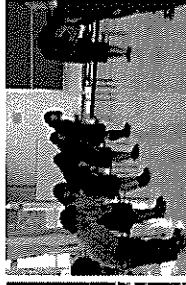
西城まちづくり学校交流



西城保育所交流



プレゼント配り



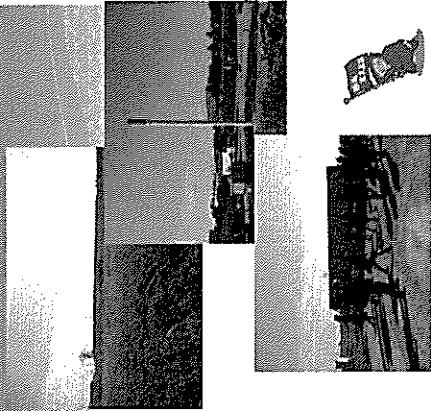
西城地域貢献活動講座

4

修学旅行



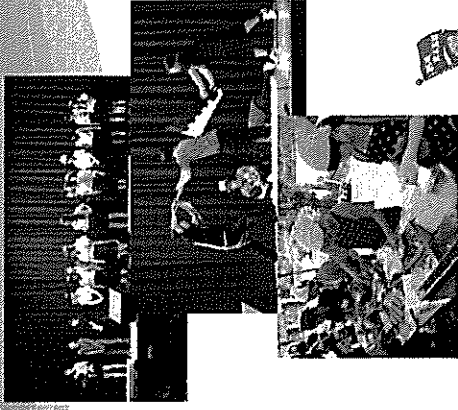
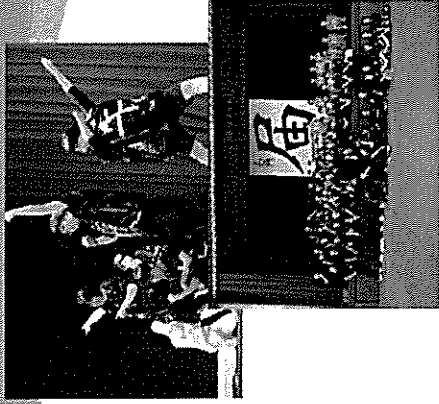
気仙沼高校との交流(事前学習)



被災地訪問

5

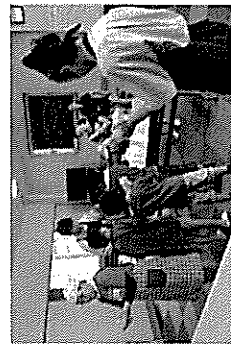
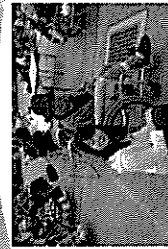
集団づくり



6

紫水祭と体育祭

ボランティア活動



7

2 研究主題(道徳教育研究指定校)

目的「考え、議論する道徳」への転換

- ① 教員の指導力向上
- ② 実践研究
- ③ 成果を県内に普及

※本校はメニュー1を指定
2年計画で実施(今年度が2年目)

8

研究主題

生命を尊重し、自己を見つめ、他者を思いやる心を育む道徳教育の実践的研究
 ～地域との交流活動や学校行事(東日本大震災被災地訪問など)を通して～

別紙資料・西城栄水高校「実施計画書」

9

第1回道徳教育LHR研究授業(11月15日)

「震災学習のまとめ」

目標

- 被災地への支援を時間的な経過を考慮しながら考えることによって、他者を思いやる心や、生命の尊さに気付き、社会の一員としての自らの役割を自覚することができる。震災学習を振り返り、学習の成果をまとめることができる。

学習	学習目標	学習内容	評価・評価方法
1. 被災地への支援を時間的な経過を考慮しながら考えることができる。	被災地への支援を時間的な経過を考慮しながら考えることができる。	被災地への支援を時間的な経過を考慮しながら考えることができる。	被災地への支援を時間的な経過を考慮しながら考えることができる。
2. 他者を思いやる心や、生命の尊さに気付き、社会の一員としての自らの役割を自覚することができる。	他者を思いやる心や、生命の尊さに気付き、社会の一員としての自らの役割を自覚することができる。	他者を思いやる心や、生命の尊さに気付き、社会の一員としての自らの役割を自覚することができる。	他者を思いやる心や、生命の尊さに気付き、社会の一員としての自らの役割を自覚することができる。
3. 震災学習を振り返り、学習の成果をまとめることができる。	震災学習を振り返り、学習の成果をまとめることができる。	震災学習を振り返り、学習の成果をまとめることができる。	震災学習を振り返り、学習の成果をまとめることができる。



「道徳教育」なのか？
 「総合的な学習の時間」
 なのか？



11

3 平成28年度の取組

・本校の道徳教育の状況

質問: 本校の道徳教育は充実していると思う。

肯定的回答 2/13 (人)



道徳教育研修

各教科：わかる授業
 LHR：深める道徳

10

課題

被災地について学習し、被災地を訪問した経験をまとめ、生命の尊さに気付かせ、具体的な行動を考へることを意図した活動であった。

しかし、生命の尊さについての考えを深める活動にならなかつた。

第2回に向けての改善ポイント

目標とする内容項目を決定し、それを深める活動とする。読み物教材を使用する。

12

第2回道徳教育LHR研究授業(2月15日)

「思いやりの心を持つ」

目標

- 地域の一人暮らしの高齢者へのプレゼント作りに参加した体験の振り返りと、読み物教材「買者の贈り物」から、プレゼントを贈ることの背後にある「他の人々を思いやる心」について、他の生徒と考え、議論することを通して、自らの考えを深めることができる。

項目	達成状況	振り返り
1. 授業の目標を達成できたか	達成できた	ほとんどの生徒が「思いやりの心を持つ」という目標を達成できた。特に、プレゼント作り体験から、高齢者への思いやりが深まった。
2. 授業の振り返りができたか	達成できた	ほとんどの生徒が、自分の考えを振り返ることができた。特に、他の人々を思いやることの重要性が理解できた。
3. 授業の振り返りが深まったか	達成できた	ほとんどの生徒が、自分の考えを振り返ることができた。特に、他の人々を思いやることの重要性が理解できた。



道徳教育としての深まりが足りない。



13

課題

読み物教材を利用し、自分の思いを語ることできたが、お互いの考えを聴くことで、さらに自分の考えを深めるまでにはいかなかった。

第3回に向けての改善ポイント

深まりがまだ足りない。考えを深めさせる発問や、問いかけを工夫してみる。

14

平成28年度の成果

質問：道徳教育推進教師は校務上機能していると思う。(教職員アンケート)

⇒ 肯定的回答 10 / 13(人)

(生徒アンケート)

	あてはまる	ややあてはまる	あてはまらない
7 人の気持ちかわかる人になりたいと思う	人数 36	22	7
	割合 55%	33%	11%
17 自分や他の人などの命大切にしている	人数 34	21	1
	割合 59%	36%	2%
7 自分や他の人などの命大切にしている	人数 8	11	3
	割合 35%	48%	13%
17 自分や他の人などの命大切にしている	人数 12	10	0
	割合 55%	45%	0%

H28年度「道徳教育改善・充実」総合対策事業 意識調査による

15

4 平成29年度の取組

「考え、議論する」道徳を志向

16

第3回道徳教育LHR研究授業(6月26日) 「よりよい学校生活と集団生活の充実」

目標

- 紫水祭を振り返り、「よりよい学校生活と集団生活の充実」のためには、自らができることは何かをそれぞれの生徒が具体的に考えることができる。

区	内容	ねらい・留意点
1	紫水祭の振り返り ① 紫水祭の振り返り ② 紫水祭の振り返り	紫水祭の振り返りを通して、生徒が学校生活と集団生活の充実のために、自らができることを考えることができる。
2	紫水祭の振り返り ① 紫水祭の振り返り ② 紫水祭の振り返り	紫水祭の振り返りを通して、生徒が学校生活と集団生活の充実のために、自らができることを考えることができる。
3	紫水祭の振り返り ① 紫水祭の振り返り ② 紫水祭の振り返り	紫水祭の振り返りを通して、生徒が学校生活と集団生活の充実のために、自らができることを考えることができる。
4	紫水祭の振り返り ① 紫水祭の振り返り ② 紫水祭の振り返り	紫水祭の振り返りを通して、生徒が学校生活と集団生活の充実のために、自らができることを考えることができる。



課題

- ① ABCDの立場に立った意見を発表することはできたが、学校生活、集団生活の改善という視点にまでは至らなかった。
- ② 積極的な意見発表が少なく、議論形式にならなかった。

第4回に向けての改善ポイント

- ① 発問・題材の工夫
(生徒がシレンマを感じるような質の高い発問や題材)
- ② 学校行事の事前LHRの充実
(各行事の実施要項へ道徳的視点の項目を入れる)

これまでの取組を振り返って

推進体制の整備

- ① 校長と推進教師のリーダーシップ
- ② 外部講師による講演
- ③ 繰り返し行う研究授業

教員の変化

- ① 職員室で会話
- ② 生徒の声が後押し
- ③ 行事に取り組み際の意識

5 今後の見通し

道徳教育の意義

- ・ 考え、議論する活動を通して
⇒ 主体的な判断ができるようになる。
自立した人間として他者とともによりよく生きる。

めざすところ

- ・ 自律した生徒を育成
- ・ 他の生徒との協働を通して好ましい人間関係を築く



第4回道徳教育LHR公開研究授業
平成29年10月30日(月)

ご清聴ありがとうございました

実施計画書

1 推進校の概要

学校名	校長名	生徒数	連携校名
西城紫水高等学校	三谷浩雄	81	庄原市立西城中学校 庄原市立西城小学校 庄原市立美古登小学校

2 研究課題

- ① 自立心や自律性、生命を尊重する心を育む道德教育
- ② 共感する力や思いやりの心、協力し合う態度を育て、集団や社会の一員としての自覚と責任を育む道德教育
- ④ 進んで人間関係をつくる力を育む道德教育
- ⑥ その他 学校の教育活動全体を通じて行う道德教育

3 研究主題

生命を尊重し、自己を見つめ、他者を思いやる心を育む道德教育の実践的研究
～地域との交流活動や学校行事（東日本大震災被災地訪問など）を通して～

4 研究の概要

本校で実施される様々な地域との交流活動や、東日本大震災の被災地を訪問する修学旅行などの学校行事に参加する体験と、それらの事前・事後学習に道德教育の視点を持って取り組ませたり、年間3回の道德教育LHRを経験したりする中での生徒の道徳的変容を見る。これらの活動を通じて、より深く生命を尊重する心や、自己を見つめ、他者を思いやる心が育まれ、他者と関わる力を身に付けることを検証する。

5 研究のねらい

本校に入学してくる生徒の中には、人と関わることを苦手としたり、他の生徒と協力し合うことに不慣れであったりするものもいる。また、学習に躓くなどして、自己肯定感を持っていないものも少なくない。本校で年間を通じて行われる様々な地域との交流活動や学校行事に参加することで、これまでもこれらの課題は徐々に改善されてきた。これらの活動自体や事前・事後学習の中に道德教育の視点を加え、生命について考えたり、仲間と感想を述べ合ったり、議論したりする時間を取り入れれば、より深く自己を見つめ、他者を思いやる心を持つ生徒を育てられ、生徒自身の自己肯定感や自尊感情も向上すると考えられる。

6 研究計画

年間を通じて様々な地域との交流活動や学校行事を計画し実施する。事前・事後活動を含め、交流活動や学校行事に道德教育の視点を取り込み、道德教育LHRを実施する。

例えば、12月に生徒は地域（西城町）の一人暮らしの高齢者へのプレゼント配りを行っている。その計画段階から生徒にできるだけ参加させ、プレゼント配りへの思いや実施後の感想を共有させる。この活動に関連して「他の人々への思いやり」をテーマに道德教育LHR

を行い、道徳性を深める。

また、2年生は修学旅行で東日本大震災の被災地を訪問するが、事前に宮城県気仙沼高等学校の生徒会と本校生徒が東日本大震災や防災をテーマに交流する。それを受けて本校生徒は東日本大震災や防災について事前学習を進める。修学旅行で宮城県を訪問し、現地の体験者から話を聞いたり、意見交換を行ったりする。修学旅行後には現地での感想や思いを互いに共有し、修学旅行のまとめを行い全校に発表する。修学旅行に関して、「自然と生命の尊さ」をテーマにした道徳教育LHRを行う。

7 活動の実施計画

実施時期	内容及び方法
5月	『道徳教育改善・充実』総合対策事業に係る生徒の意識調査（第1回） 第1回道徳教育校内研修
5, 7, 10, 2月	町内ボランティア清掃（西城クリーンディを含む）（全学年）
6月17, 18日	紫水祭（全学年）
6月下旬	第1回道徳教育LHR「協力と仲間づくり」
6月～7月	宮城県気仙沼高等学校生徒会との交流（2年生）
7月5日	講演「考える力と感じる力」 講師 村上育朗 氏
8月～9月	東日本大震災についての修学旅行事前学習（2年生）
8月	第2回道徳教育校内研修
9月～3月	「西城地域貢献活動講座」地域実習（2年生）
10月3日	修学旅行・宮城県石巻市訪問（2年生）
10月中旬	修学旅行事後学習（2年生）
10月21日	体育祭（全学年）
10月下旬	西城まちづくり学校との交流（全学年）
10月30日	第2回道徳教育LHR「自然や生命の尊さ」（公開研究授業）
11月11日	90周年行事
12月18日	町内の一人暮らしの高齢者へのプレゼント配り（全学年）
12月中旬	第3回道徳教育LHR「他の人々への思いやり」
1月	『道徳教育改善・充実』総合対策事業に係る生徒の意識調査（第2回）
2月	学習発表会 研究のまとめ

日 時： 平成 28 年 11 月 15 日 (火) 6 限目
場 所： 広島県立西城紫水高等学校 大講義室
学 年： 2 年 A 組 24 人 (男子 16 人, 女子 8 人)
指導者： 担任 中原 幸代, 副担任 佐々木 新二
主 題： 震災学習のまとめ

1 単元について

○ 道徳的価値観

中学校の道徳の内容項目 2-(2)「温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ。」及び 3-(1)「生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する」にあたる内容である。

生徒たちは気仙沼高校生徒会との交流と被災地・石巻への修学旅行を体験した。語り部ボランティアの方に話を聞きながら現地をバスで巡った。実際に現地に赴いて、当時の様子を直接体験者から聞いたことで、震災により困難な生活を強いられた、現在も強いられている人たちの状況をより鮮明に思い描くことができた。その上で、自分たちができる支援の方法を再考することを通して、命の尊さやその命を大切に思いやりの心に気付かせたい。また、自らの社会的な役割を自覚し、社会の一員としての在り方を考えるきっかけとしたい。

○ 生徒観

2 年生は、震災学習の一環として 10 月に修学旅行で仙台・石巻を訪れ、東日本大震災の当時の状況や復興途上の現状について学習した。事前準備として、東日本大震災についての特集番組を視聴するなどの学習をしたり、気仙沼高校生徒会との交流を行ったりしてきた。また、修学旅行後には「修学旅行報告」の一部として、「東日本大震災・震災学習」としてのまとめを行い、保護者、地域の方々の前で発表を行った。現地訪問前には厳しい震災の状況を想像することは困難であったようだが、実際に現地を訪問し、体験者の話を聞くなどして、震災の状況をより現実的なものとして感じている様子である。

○ 指導観

現地への修学旅行を終え、被災地のことやその支援についてより身近に感じ、自分たち自身の問題として捉えられるようになってきていると考えられる。また、震災から 5 年が経過しており、当時の様子だけでなく復興の様子も目にすることができた。被災地のことやその支援について、時間的な経過も考えながら、自分たち自身の問題として捉えさせたい。考えるだけでなく、具体的な行動に移すことによって、自らの社会的な役割を実感させたい。これまでの震災学習を振り返ることで自らの成長に気付かせたい。

2 目標

- 被災地への支援を時間的な経過を考慮しながら考えることによって、他者を思いやる心や、生命の尊さに気づき、社会の一員としての自らの役割を自覚することができる。震災学習を振り返り、学習の成果をまとめることができる。

3 展開（全1時間）

LHR（被災地訪問のまとめ）

準備物：ワークシート、プロジェクタ、スクリーン、パソコン

過程	学習活動	主な発問と予想される生徒の心の動き (◎中心発問)	指導上の留意点
導入 (15分)	○「平成28年度修学旅行報告」内の「東日本大震災・震災学習」の部分をPowerPointで見る。		クラス全員が現地学習をしている。
展開 (30分)		◎震災学習を続けてきた中で、自分が学んだことは何でしたか。	
	○個人で考え、その後グループで話し合い、各グループで出た意見を発表する。(出た意見をもう一度グループで話し合う。)	予想される回答 ・相手の立場になって考える ・実効のある援助 ・関心を持つことの大切さ ・自他の生命の尊重	話し合う態度、他人の意見を聞く態度について確認する。
		被災地を支援するために私達には、何ができるかももう一度考えてみよう。 (被災直後から復興、将来までの時間軸を設定する)	
	○グループで話し合い、各グループで出た意見を発表する。	・実際に被災地を訪れたことで、より被災者の立場を深く理解した意見が期待できる。	
まとめ (5分)		震災学習のまとめをしましょう。	
	○ワークシートに記入しながら、震災学習を振り返り、自分がすること(行動変容)を入れてまとめを行う。	期待される回答 ・募金箱を見たら募金する。 ・震災のニュースをしっかりと見る。 ・震災の事を忘れない。 ・来年の紫水祭で〇〇する。 ・被災地に行ったら〇〇する。	「何をする」という表現を用いて、実行可能な決意の例を挙げる。

広島県立西城紫水高等学校

指導者 T1 担任 片山 壮希

T2 副担任 森脇 綾子

- 1 日時：平成29年2月15日(水) 6限目(14:20~15:10)
- 2 場所：広島県立西城紫水高等学校 大講義室
- 3 学年：1年A組 14人(男子8人, 女子6人)
- 4 主題：地域交流活動のまとめと作品読解から、人を思いやる心を育てる。
- 5 資料名：「賢者の贈り物」(ダイジェスト版・私たちの道徳 中学校 p57)
- 6 単元について

(1) 道徳的価値観

中学校の道徳の内容項目2-(2)「温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ。」にあたる内容である。

私たちは日常生活の中で、互いにさまざまなものを贈りあう。その背後には軽重の幅はあるが、なんらかの相手を思う気持ちが隠されている。相手に何をどのような方法で贈るかは、相手に対してどれほどの思いを持っているかが反映されている。プレゼントを贈るという行為の背後にある「相手に対する思いやりの心」に、高さや美しさがあることに気づき、自らの持つ思いやりの心を深めさせたい。

(2) 生徒観

1年生は、入学当初21人でスタートした。入学以前からの不登校傾向を克服できず、早い時点で休学に入ったり、学習に躓いたり、問題行動の指導の過程で進路変更したりした生徒等もあり、常時登校する生徒が現時点で14人になった。残った生徒の中にも、いろいろな課題を抱え、他の生徒の気持ちを考えられなかったり、他の生徒の思いに気づけなかったりする生徒もいる。

しかし、本校への入学以来、地域でのボランティア清掃、紫水祭、西城まちづくり学校との交流会等、様々な行事を体験し、授業の中でも「広島版『学びの変革』アクション・プラン」の流れの中で、小グループでの学習や他の生徒との学び合いの場면을数多く経験する中で、それぞれの生徒の中に精神的な成長とコミュニケーション力の向上が認められるようになっていく。

本校で10年以上前から続けている「地域の一人暮らしの高齢者へのプレゼント配り」を今年は12月6日(火)に実施した。全校生徒で取り組んだこの活動は「地域のために自分たちが何かできることがないか」という生徒たちの思いを基に始まったものである。プレゼントの内容は変化してきたが、今年度は地域の保育所・小学校・中学校の協力も得ながらカレンダーを制作し、町内200人以上の高齢者に生徒が数人でグループを作って訪問し配付した。生徒には制作段階から積極的に関わった者もいれば、配付だけに関わった者もいる。「人にものを贈る」という行為を通して、他の人々に対する思いやりの心を深める契機となった。

(3) 指導観

集団の中でお互いに安定し、充実した生活を送っていくためには、互いに対する思いやりの心を持つことが不可欠である。本校では「様々な交流活動や学校行事を通じて、生徒の道徳心を育む」ことを今年度の研究主題としている。今回は、一人暮らしの高齢者へのプレゼント配りの体

験を振り返るとともに、読み物「賢者の贈り物」を読んでの意見交換を通して、人を思いやる心とは何かについて考えを深めさせたい。

7 目標

地域の一人暮らしの高齢者へのプレゼント配りに参加した体験の振り返りと、読み物「賢者の贈り物」から、プレゼントを贈ることの背後にある「他の人々を思いやる心」について、他の生徒と考え、議論することを通して、自らの考えを深めることができる。

8 展開（全1時間）

LHR（他の人々に対して思いやりの心を持つ）

過程	学習活動	主な発問と予想される生徒の心の動き (◎中心発問)	指導上の留意点
導入	○本時のめあてを知る。		○本時のめあてを簡潔に示す。
展開1 (15分)	○「一人暮らしの高齢者へのプレゼント配り」に参加した時の感想と、高齢者の気持ちを想像する。	○プレゼント配りをした時、どんな気持ちでしたか。 ・よろこんでもらえた。 ・はずかしかった。	・自分と相手の気持ちを考える。 ・話す態度、聞く態度を大切にする。
展開2 (15分)	○「賢者の贈り物」(ダイジェスト)を読む。 ○感想と意見を出し合う。	○感想や疑問点はありませんか。 予想される疑問・意見 ・失敗したプレゼント ・優しい ・すれ違い ・「賢者」とは何か	・話の内容を整理し、生徒の理解を助ける。
展開3 (10分)	○意見を出し合う。	◎「賢者の贈り物」と「プレゼント配り」とに共通する点は何だろうか。	・様々な意見を引き出す。 ・話す態度、聞く態度を大切にする。
まとめ (10分)	○「プレゼント配りの体験」と「賢者の贈り物」とを「思いやりの心」を軸にワークシートにまとめる。	○今日の学習を振り返って、感じたことや考えたことを書きましょう。	・発表を促す。 ・無理にまとめようとしない。

9 準備物：資料、ワークシート、プロジェクタ、スクリーン、パソコン

広島県立西城紫水高等学校

指導者 T1 担任 山崎 剛
T2 学年付 竹下 斉

- 1 日時：平成29年6月26日(月)6限目(14:20~15:10)
- 2 場所：広島県立西城紫水高等学校 ホームルーム教室
- 3 学年：1年B組 20人(男子10人, 女子10人)
- 4 主題：よりよい学校生活と集団生活の充実
- 5 資料名：紫水祭アンケートの結果,
- 6 単元について

(1) 道徳的価値観

中学校の道徳の内容項目C(15)「教師や学校の人々を敬愛し、学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合ってよりよい校風をつくとともに、様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に努めること。」にあたる内容である。

私たちは一人の人間としてこの世界に生まれるが、生まれた時点から様々な集団に所属しながら成長を続ける。その中で、小学校、中学校、高等学校、大学といった「学校」という集団の中での行動と経験は、その後の社会で所属する集団での私たちの生活の在り方・生き方の訓練の場となり、人生の充実感・幸福感に大きな影響を与える。

集団において、個人がばらばらにそれぞれの生活の充実に追求したのでは、たとえそれが個人的に充実していたとしても、幸福感は希薄なものとなろう。集団の中で、個人が互いに協力し合い、集団全体が充実した経験をした時、より深い幸福感を得ることができる。そのような経験が、その後の社会でのその人の生き方・在り方を決定していくことになる。学級や学校の一員としての自覚をもち、集団の中での自分の役割と責任を自覚して、よりよい集団を作っていく力を育むことが主題である。

(2) 生徒観

これまでの日常の学校生活においては、他の生徒や自らが所属する集団のことを考えられず、自分勝手な行動をとる生徒が少なからず見られ、また全体としても互いに協力し合い、互いを向上させ、集団生活を充実させていく意識は希薄であるように感じられていた。

生徒たちは年間の学校行事の中で最も大きなものの一つである紫水祭(学園祭)を経験した。今年度は「届-とどけ- ~90周年の感謝と次のステージへの思いを込めて~」というテーマのもと、生徒たちは各クラスでのステージ発表と模擬店を中心に紫水祭に関わった。当日まで、各クラスの中では様々な衝突や分裂もあったようである。しかし、今年の紫水祭を全体的に振り返ると、まだまだ物足りない部分があるものの、昨年からは全体的にレベルアップしており、生徒自身も西城紫水高校やクラスという集団の一員として、学校行事としての紫水祭に臨み、集団の一員としての充実感や達成感を持つことができたと思われる。

(3) 指導観

他と協力し、集団として高め合う力が全体的に弱い生徒たちであったが、紫水祭を経験することで、集団としてまとめ、目標を達成することを学んだ。集団の中の一員として、他と協力し

て活動する中で得られる充実感も感じたことであろう。これを契機に「学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合ってよりよい校風をつくるとともに、様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に努める」という意識を育みたい。秋に実施される38年ぶりの体育祭を充実した体験とするために、集団の中で自らが何ができるかを具体的に考えさせたい。

7 目標

紫水祭を振り返り、「よりよい学校生活と集団生活の充実」のためには、自らができることは何かをそれぞれの生徒が具体的に考えることができる。

8 展開（全1時間）

LHR（よりよい学校生活，集団生活の充実）

過程	学習活動	主な発問と予想される生徒の心の動き (◎中心発問)	指導上の留意点
導入 (10分)	1 紫水祭を振り返り感想を共有する。	○紫水祭を経験してどのような感想を持ちましたか。(よかった点, 反省点) ・クラスとして頑張れた。 ・何とか終わって良かった。 ・とても頑張っている人もいたし、そうでない人もいた。 ・たくさんの人が見に来てくれてうれしかった。 ・喜んでくれた人がいてよかった。 ・去年より良かった。 ・準備が大変で、面白くなかった。	○生徒に発現させる。 ○できるだけ良かった点をあげさせる。 ○紫水祭を成功体験としてまとめる。
展開 (30分)	2 それぞれの感想の理由, 原因を考え, 深める。	○良かった点, 反省点を掘り下げよう。(なぜうまくいったのか, うまくいかなかったのか, 何が良かったのか, 悪かったのか等) ・協力し合ったから(できなかったから) ・責任を持って仕事をした人がいたから(いなかったから) ・みんなの気持ちがそろったから	○道徳的価値に気付かせる。

	<p>3 それぞれの人の立場や思いを 考えてみよう。</p> <p style="text-align: center;">役割を果たした</p> <div style="text-align: center;"> </div>	<p>○A, B, C, Dの人たちの気持ちや感想を考えてみよう。(あなたはどこでしたか, どんな気持ちでしたか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・充実した。 ・申し訳なかった。 ・やることがなかった。 ・集団でやるのは苦手。 	<p>○攻撃的・批判的にならないようにする。</p> <p>○様々な思いがあることに気付かせる。</p> <p>○軸は実施者で決定する。</p>
<p>課題 (体育祭に向けて) 自分ができていることを考えてみよう。</p>			
<p>まとめ (10分)</p>	<p>4 (体育祭, より良い学校生活)のために自分に何ができるかを考え, ワークシートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな人の意見を聞く。 ・みんなで取り組めるよう工夫する。 ・やることはやる。 	<p>○様々な思いがあったことを踏まえて自分のできていることを考える。</p>

9 準備物：ワークシート

西城紫水高校 道德教育関係研修等一覧

日 時	内 容	講師・指導・助言者
H28 5/24	職員研修 「『道德教育改善・充実』総合対策事業」について説明 本校生徒の実態について教職員間で話し合い、本校生徒の道德的課題を確認	道德教育担当
9/21	研修 「道德教育の現状と高等学校での道德教育」という演題で講演	大阪教育大学名誉教授 藤永芳純先生
11/15	研究授業 「修学旅行のまとめ」をテーマに2年生のLHRを実施 実施後、協議会・研修会	大阪教育大学名誉教授 藤永芳純先生 豊かな心育成課 金子指導主事
H29 2/15	公開研究授業 「一人暮らしの高齢者へのプレゼント配り」をテーマに1年生で道德教育LHRを公開研究授業として実施 実施後、協議会・研修	大阪教育大学名誉教授 藤永芳純先生 豊かな心育成課 金子指導主事
6/22	研修 道德教育指導者育成研修に参加した担当者からの、道德教育の現状と実践についての報告	道德教育担当
6/26	研究授業 「仲間づくり」をテーマに全クラスで道德教育LHRを実施 実施後、協議会・研修	豊かな心育成課 大橋指導主事
8/5	西城町保・小・中・高連携プロジェクト全体研修 保・小・中・高からの道德教育活動実践報告 「郷土への関心・愛着を育てる道德教育」という演題で講演	くらしき作陽大学教授 秋山博正先生